

籠谷直人教授 略歴・著作目録

略 歴

学 歴

1977年3月	京都府立東宇治高校卒業
1977年4月	大阪市立大学 経済学部入学
1981年3月	大阪市立大学 経済学部卒業 経済学学士
1981年4月	一橋大学大学院 経済学研究科 修士課程入学
1983年3月	一橋大学大学院 経済学研究科 修士課程修了
1983年4月	一橋大学大学院 経済学研究科 博士課程入学
1986年3月	一橋大学大学院 経済学研究科 博士課程中退

学 位

1983年3月	修士（経済学・一橋大学）
2000年3月	博士（経済学・大阪市立大学）

職 歴

1986年4月-1987年3月	一橋大学 経済学部 助手
1987年4月-1991年3月	愛知学泉大学 経営学部 講師
1991年4月-1995年3月	名古屋市立大学 経済学部 助教授
1995年4月-2004年3月	京都大学 人文科学研究所 助教授
2004年4月-	京都大学 人文科学研究所 教授（現在に至る）
2009年4月-2010年3月	京都大学 文学研究科 協力教員
2010年4月-2020年3月	京都大学 アジア・アフリカ地域研究研究科 協力教員
2011年4月-2017年3月	大学院地球環境学堂・学舎 教授（併任）
2024年3月	京都大学定年退職・名誉教授称号授与

研究代表歴

外部資金獲得状況（代表のみ・その他は省略）

科研費

1998年	日本と南アジアとの通商網に関する史的分析 特定領域研究（A）（課題番号：10116205）
1988年	19世紀後半の日本をとりまく国際環境と工業化 奨励研究（A）（課題番号：63730037）
1992年	戦時統制期における綿業企業・企業集団と政府の関係 奨励研究（A）（課題番号：4730038）

人 文 学 報

1997年-1998年	日本の近代化と華僑・印僑ネットワークとの相互連関についての歴史的 分析 萌芽的研究 (課題番号: 9873009)
1999年-2000年	戦前日本と南アジアの通商に関する実証的研究 特定領域研究 (A) (課題番号: 11113206)
2000年	日本と南アジアとの通商網に関する史の実証研究 特定領域研究 (A) (課題番号: 12013204)
2005年-2007年	戦後アジア・太平洋経済圏における通商秩序と日本 基盤研究 (C) (課題番号: 17530265)
2008年-2010年	アジア・ネットワークにおける制度と生存基盤に関する基礎的研究 基盤研究 (C) (課題番号: 20530305)
2012年-2015年	熱帯圏における日本人社会形成についての経済史的研究 挑戦的萌芽研究 (課題番号: 24653078)
2012年-2016年	グローバル化時代のアジア・ネットワーク地域社会変容: ジャワ海港都 市を事例として基盤研究 (A) (課題番号: 24242022)
<u>その他</u>	
2004年-2007年	帝国とネットワークーアジア地域秩序の解明 (日本学術振興会・人文・社会科学振興プロジェクト研究事業「研究領 域II グローバル・ガバナンスの解明」)
2010年-2014年	植民地台湾ー「南洋」における日本人社会に関する資料の調査・研究 (人間文化研究機構・人間文化にかかわる総合的研究推進「近現代にお ける日本人移民とその環境に関する在外資料の調査と研究」)
2010年-2014年	メガシティが地球環境に及ぼすインパクトーそのメカニズム解明と未 来可能性に向けた都市圏モデルの提案 歴史班代表
2011年	近代における熱帯地域の華僑ネットワークと日本人社会についての研究 (京都大学コアステージバックアップ研究費)
2015年	近代アジアの植民地港湾都市を起点とした社会経済的変容とその相克 (京都大学教育研究振興財団助成事業・国際会議開催助成)

主要業績

単著・編著書等

- ・『アジア国際通商秩序と近代日本』(単著) 名古屋大学出版会, 2000年2月
- ・『1930年代のアジア国際秩序』(秋田茂との共編著) 溪水社, 2001年4月
- ・『帝国とアジア・ネットワークー長期の19世紀(脇村孝平との共編著)』世界思想社,
2009年11月
- ・『在台湾・日本関係資料ワークショップ報告書(未定稿)』(編著) 双林印刷社, 2012年3
月

- ・『堤林数衛関係文書選輯』（鍾淑敏との共編著）中央研究院台湾史研究所，2014年2月
- ・『茶苦来山人の逸話：三好徳三郎的台湾記憶』（鍾淑敏ほかとの共編著）中央研究院台湾史研究所，2015年3月
- ・『第2回・3回 在台湾・日本関係資料ワークショップ報告書（未定稿）』（編著）双林印刷社 2015年3月
- ・『台湾銀行資料データベース臺灣銀行所蔵日治時期文書公開記念ワークショップ報告書』（編著）双林印刷社 2016年2月
- ・『メガシティ3 歴史に刻印されたメガシティ』（村松伸ほかとの共編著）東京大学出版会 2016年8月
- ・『近代東南アジア社会経済の国際的契機』（川村朋貴との共編著）臨川書店 2023年3月

主要論文

- ・「大日本紡績連合会」，橋本寿朗，武田晴人編『両大戦間期 日本のカルテル』（共著）御茶の水書房，1985，363-409頁
- ・「第一次大戦前における日本紡績独占の成立：紡連のカルテル化と中国」『社会経済史学』52巻5号（1987年），664-696頁
- ・「西三河地方における木綿仲買商の動向 碧海郡新堀村，深見紀兵衛家を事例にして」『岡崎市史研究』11号（1989年），78-110頁
- ・「1880年代の日本をとりまく国際環境の変化：中国人貿易商の動きに注目して」『経営研究』（愛知学泉大学）2巻2号（1989年），205-228頁
- ・「1880年代のアジアからの“衝撃”と日本の反応 — 中国人貿易商の動きに注目して」『歴史学研究』608号（1990年），1-18，62頁
- ・「西三河地方における木綿賃織経営の一事例 額田郡本宿村・富田代太郎家をめぐって」『岡崎市史研究』13号（1991年），22-43頁
- ・「近代日本史研究と日本華僑史研究」飯島渉編『華僑・華人史研究の現在』汲古書院，（1999年），225-268頁
- ・「1880年代の対アジア貿易と直輸出態勢の模索 — 日本昆布会社を事例にして」『オイコノミカ』（名古屋市立大学経済学会）31巻（2・3・4）号（1995年），231-259頁
- ・「「地主制」論と「物価史」論 — 近世経済史研究をめぐる若干の印象」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』96巻（1・2）号（1995年）39-45頁
- ・「日中戦争前の日本の経済外交 — 第二次「日印会商」（1936～37年）を事例に一」『人文学報』（京都大学人文科学研究所）77号（1996年），99-140頁
- ・“The Role of Chinese Merchants in the Development of the Japanese Cotton Industry,

- 1890-1934” ZINBUN (Jinbun kagaku Kenkyusho, Kyoto University) 30号 (1996年), 149-190p
- ・「東洋棉花ボンベイ支店のインド棉花直買活動」杉山伸也, リンダ・グローブ編『近代アジアの流通ネットワーク』創文社 (1996年), 233-255頁
 - ・「1940年代初頭の日本綿布取引をめぐるアジア通商網 — 日本綿糸布輸出組合「南方地域向取引調」の検討 —」『人文学報』(京都大学人文科学研究所) 79号 (1997年), 189-216頁
 - ・「日蘭会商 (1934年6月-38年初頭) の歴史的意義 — オランダの帝国主義的アジア秩序と日本の協調外交 —」『人文学報』(京都大学人文科学研究所) 81号 (1998年), 1-46頁
 - ・「知多木綿研究の課題について」日本福祉大学知多半島総合研究所編『知多半島歴史研究の十年』校倉書房 (1998年), 72, 155-183頁
 - ・「戦前期日本人商社によるインド棉花の奥地買付活動 — 東洋棉花ボンベイ支店を事例にして —」『人文学報』(京都大学人文科学研究所) 82号 (1999年), 1-18頁
 - ・「戦間期アジア通商網の歴史的意義」日本孫文研究会・神戸華僑華人研究会『孫文と華僑』汲古書院 (1999年), 320-336頁
 - ・「1930年代の華僑通商網と日本」杉原薫編集担当『岩波講座 世界歴史 19 移動と移民 — 地域を結ぶダイナミズム』岩波書店 (1999年) 171-198頁
 - ・「綿業通商摩擦問題と日本の経済外交」中村政則編『近現代日本の新視点』吉川弘文館 (2000年), 160-182頁
 - ・「1930年代の日本の綿布輸出統制の実態 — 日本綿糸布印度輸出組合を事例にして —」『人文学報』(京都大学人文科学研究所) 83号 (2000年), 125-141頁
 - ・「1930年代前半のシンガポールにおける華僑通商網」経済史研究 (大阪経済大学日本経済史研究所) 4号 (2000年), 100-122頁
 - ・「戦間期日本とアジア通商網 — 日本の綿布取引を事例にして」古屋哲夫・山室信一編『近代日本における東アジア問題』吉川弘文館 (2001年), 238-264頁
 - ・「商品流通と華僑ネットワーク」森時彦編『中国近代の都市と農村』(共著) 京都大学人文科学研究所 (2001年), 277-305頁
 - ・“Up-country Purchase Activities of Indian Raw Cotton by Yoyo Menka's Bombay Branch, 1896-1935” in Shinya Sugiyama and Linda Grove (eds.) *Commercial Networks in Modern Asia*, Curzon, 2001, pp. 199-213
 - ・“The International Order in Asia in the 1930s,” in Shigeru Akita (ed.) *Gentlemanly Capitalism, Imperialism, and Global History*, Palgrave, 2002, pp. 143-167
 - ・「アジア通商網のなかの南アジアと戦前期日本」, 秋田茂・水島司共編『現代南アジア 6

- 世界システムとネットワーク』東京大学出版会（2003年）、275-298頁
- ・「大英帝国「自由貿易原則」とアジア・ネットワーク」、山本有造編『帝国の研究 ― 原理・類型・関係 ―』名古屋大学出版会（2003年）、291-321頁
 - ・「イギリス帝国支配秩序とアジアの商人ネットワーク」、秋田茂編著『イギリス帝国と20世紀 第一巻 パクス・ブリタニカとイギリス帝国』ミネルヴァ書房（2004年）、249-277頁
 - ・「近代日本の「地域」形成についての一考察」環 17 藤原書店（2004年）、176-184頁
 - ・「戦間期のアジア綿業」、経営史学会編『外国経営史の基礎知識』有斐閣（2005年）、344-345頁
 - ・「帝国下における商人のネットワーク」現代中国研究（中国現代史研究会）16号（2005年）、2-6頁
 - ・「日本綿業における在華紡の歴史的意義」、森時彦編『在華紡と中国社会』京都大学出版会（2005年）、3-32頁
 - ・“The Chinese Merchant Community in Kobe and the Development of the Japanese Cotton Industry, 1890-1941,” in Kaoru Sugihara (ed.) *Japan, China and the Growth of the Asian International Economy, 1850-1949*, Harvard University Press, 2005, pp. 49-72
 - ・「日中全面戦争後の在日本華僑・印僑ネットワーク」、倉沢愛子、杉原達ほか編『岩波講座アジア・太平洋戦争 7 支配と暴力』岩波書店（2006年）、157-188頁
 - ・「東アジアにおける主権国家形成と帝国主義」『歴史科学』（大阪歴史教育協議会）15号（2006年）、1-19頁
 - ・「帝国経済の対立と宥和 ― 日印会商をめぐる日英印の三国関係」、石田憲編『膨張する帝国, 拡張する帝国』東京大学出版会（2007年）、55-79頁
 - ・「東アジアにおける自由貿易の浸透」、遠藤乾編『グローバル・ガバナンスの最前線』（日本学術振興会（JSPS）「人文社会科学振興にむけての研究事業成果報告書」東信堂（2008年）、145-161頁
 - ・「1960年代初頭の綿製品国際取極会議の歴史的意義」、富永茂樹編『転回点を求めて ― 1960年代の研究』世界思想社（2008年）、96-116頁
 - ・「総論」, 「東アジアにおける自由貿易原則の東漸」、籠谷直人・脇村孝平共編『帝国とアジア・ネットワーク ― 長期の19世紀』世界思想社（2009年）、1-16, 79-99頁
 - ・「近代東アジアにおける自由貿易原則の浸透」、遠藤乾編『グローバル・ガバナンスの人と思想』有斐閣（2010年）、217-242頁
 - ・「自由貿易原則在東亞浸透」、李玉主編『東亞的価値』北京大学出版社（2010年）、160-177頁

- ・「近代東アジアにおける自由貿易原則の浸透と華僑」総合地球環境学研究所・深見奈緒子編『第三回全球都市全史研究会報告集 生態系からみた都市とそのネットワーク』（2010年）、32-42頁
- ・“Japan’s Commercial Penetration of South and Southeast Asia and the Cotton Trade Negotiations in the 1930s: Maintaining Relations between Japan, British India and the Dutch East Indies” Shigeru Akita and Nicholas J. White (eds.) *The International Order of Asia in the 1930s and 1950s*, Ashgate, 2010, pp. 179-206
- ・「第一次世界大戦下の東南アジア経済と日本」後藤乾一編『岩波講座東アジア近現代通史 3 戦争と改造 1910年代』岩波書店（2010年）、231-254頁
- ・コラム「米騒動」『岩波講座 東アジア近現代通史 3 世界戦争と改造 1910年代』岩波書店（2010年）、42頁
- ・「帝国と帝国と商人ネットワーク」社会経済史学会編『社会経済史学の課題と展望』有斐閣（2012年）、276-292頁
- ・「コラム「西原借款—東アジア経済史から見た大戦」」山室信一ほか編『現代の起点 第一次世界大戦 第1巻』岩波書店（2014年）、201-210頁
- ・「1930年代前半の日本綿製品の対イギリス領インド輸出をめぐる論点：第一次日印会商（1933年9月25日-34年1月5日）の再論」『人文学報』（京都大学人文科学研究所）110号（2017年）、183-213頁
- ・An Merchant’s Networks and Japan’s Trade Recovery from the Great Depression in the 1930’S. hoi Chi-cheung (eds.) *Chinese and Indian merchants in modern Asia: networking businesses and formation of regional economy*. Brill. 2019. 11

書評

- ・書評：濱下武志・川勝平太編『アジア交易圏と日本工業化 1500-1900』リポート社『歴史学研究』654号（1991年）、49-52頁
- ・書評：山岡由佳『長崎華商経営の史的研究 — 近代中国商人の経営と帳簿 —』ミネルヴァ書房、『土地制度史学』160号（1998年）、73-75頁
- ・書評：A. J. H. Latham and Heita Kawakatsu (eds.) *Japanese Industrialization and the Asian Economy* (Routledge, London, 1994) 『社会経済史学』65巻6号（2000年）、724-726頁
- ・書評：黒田明伸著『中華帝国の構造と世界経済』『経済科学』（名古屋大学経済学研究科）42巻5号（1995年）、81-89頁
- ・書評：「横浜と上海」共同編集員会編『横浜と上海近代都市形成史比較研究』

- 『史潮』（歴史学会）40号（1996年），92-96頁
- ・書評：木畑洋一編著『大英帝国と帝国意識 — 支配の深層を探る —』『アジア経済』（日本貿易振興機構アジア経済研究所）42巻5号（2001年），64-69頁
 - ・書評：石井修『世界恐慌と日本の「経済外交」— 1930-1936年』勁草書房，1995年
『大阪外国語大学アジア太平洋論叢』（大阪外国語大学アジア太平洋研究会）第7号（1997年），209-217頁
 - ・書評：澤田貴之著『アジア綿業史論 — 英領期末インドと民国期中国の綿業を中心として』『南アジア研究』（日本南アジア学会）15号（2003年），215-223頁
 - ・書評：大島真理夫編著『土地希少化と勤勉革命の比較史 — 経済史上の近世』ミネルヴァ書房，『経済史研究』（大阪経済大学日本経済史研究所）14号（2011年），245-252頁
 - ・書評「『米騒動の研究』を読む 井上清，渡辺徹編 全5巻 有斐閣 1959-1962年」
『人文学報』（京都大学人文科学研究所）101号（2011年），119-128頁

その他 報告書等省略